

# 住民に寄り添う

— 気仙人の奮闘 —

東日本大震災の被害から立ち上がり、復興や住民生活の再建に向けた動きが本格化した。インフラ復旧が進まず、さまざまな課題が待ち構えるが、地域住民に寄り添うという熱意が行動を後押ししている。地域に元氣と活気を呼び込む気仙人の姿を追った。



## 「重傷者を救うことができた」

災害拠点病院の県立大船渡病院は通常診療をストップし、負傷者を優先する災害医療を実施した。大船渡病院D.M.A.T.隊長の山野目辰味医師は、各都県から同病院の支援に集まったD.M.A.T.計19チーム、総勢84人を取りまとめる統括D.M.A.T.を務め、陣頭指揮を取った。D.M.A.T.（災害派遣医療チーム）は阪神・淡路大震災の教訓を生かした。発災の翌朝一番に八戸市民病院チームが入り、全国から続々とD.M.A.T.が到着し機動力を發揮した。発災から翌朝にかけて、ヘリや救急車で負傷者69人が運び込まれた。死者8人いた。トリアージを行った助かる見込みのある赤色タグの重傷者を最優先に治療した。外来待合ホールの長いすもベッドにして負傷者を治療し、内陸へも搬送した。D.M.A.T.は病院支援と現場活動に奔走した。4、5日経って山野目医師は、宮古市にある実家が津波で流失する被災映像をテレビで見た。ショックを受け

「重傷者のほとんどを救えたことが我々の活動の成果。災害医療にこれからも携わって」。日本D.M.A.T.隊員でもあり、使命感に燃える。

**災害派遣D.M.A.T.を統括**  
**山野目辰味さん(52)**

# 生きて支えて立ち上がる



(株)高田自動車学校  
**田村 満さん(64)**

田村さんにはあるアイデアがある。全国から受けた義援金の一部を基金にし、無利息・無担保・無保証で中小・零細企業に貸し出すというものだ。各月に10万、20万円の見舞い金をもろっても、一時的に金が足りないという理由で返済できないまま放置されかねない。雇用を切らぬための方策に役立てるべき。返済金がプールされれば、有事の際にまた企業力となる。「雇用調整金など使えるものは最大限に使い、知恵を働かせよう。こそ、本物の経営者になれる」と企業家へ訴える田村さん。同スクールは21日から営業が再開される。

## 「地域のため雇用を守る」



「これまで営業してきた場所でも再び理容店を構えることができればいいが、そうもいかない。店舗兼自宅が津波で流され、常に「また襲って来るかも」という思いが強い。今後はさみぎを握る気にはなれない。市や県、国が今後の陸前高田市の商店街づくりについで早く方向性を示してもらいたい。高田町を離れたくない」。同町の馬場前地区理容店の会長の柳下さん。仲間内の商店主も多くが「なう」なっており、再び店を開くというのは状況が知られる。「この状況では馬場や大町、駅前、駅通、荒野などの各商店会が一つとなり、高台に新たな高田町商店会をつくるしかない」と強調。その商店会を核に住宅が増えるようにならうと「津波が襲った地域（土地）を国が買い取るような話もあるのだが、なるべく早めに進めてほしい。その上で、被災者へ代替地を提供してもらいながら新しい町の再生に向け、自分も役立っていきたい」とまっしげ。

理容店経営  
**柳下正一さん(66)**

## 「ここを離れたくない」

## 「働けるだけで今は幸せ」



沿岸部で移動販売  
**佐藤幸生さん(61)**

被災から1週間は、トラックに乗せる商品の確保が進まず、何もできない状態が続いた。しばらく販売し出られないという思いの半面、早く再開させたい焦りもあったと振り返る。そんな時、マイヤから打診があった。内陸部からの仕入れは確保できているものの、既存店舗が壊滅的な被害を受けたマイヤ。販

「働けるだけで今は幸せ。お客さんの笑顔は、何物にも替えられない喜び」。東日本大震災以降、働きたいマイヤから委託を受け、冷蔵機能を持つトラックで移動販売を行って大船渡市大船渡町の佐藤幸生さん。沿岸部を中心に回り、買い物に苦勞している高齢者の食生活を支えている。30年以上「マルコウ佐藤」として、近隣の商店がない地域を回る移動販売を続けている。3月11日は、販売のため来っていた日頃市町大森地区で激しい揺れに襲われた。大船渡町に戻ると、自宅は無事だったが、仕入れ先などは大きな被害を受けていた。被災から1週間は、トラックに乗せる商品の確保が進まず、何もできない状態が続いた。しばらく販売し出られないという思いの半面、早く再開させたい焦りもあったと振り返る。そんな時、マイヤから打診があった。内陸部からの仕入れは確保できているものの、既存店舗が壊滅的な被害を受けたマイヤ。販